

本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんと中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



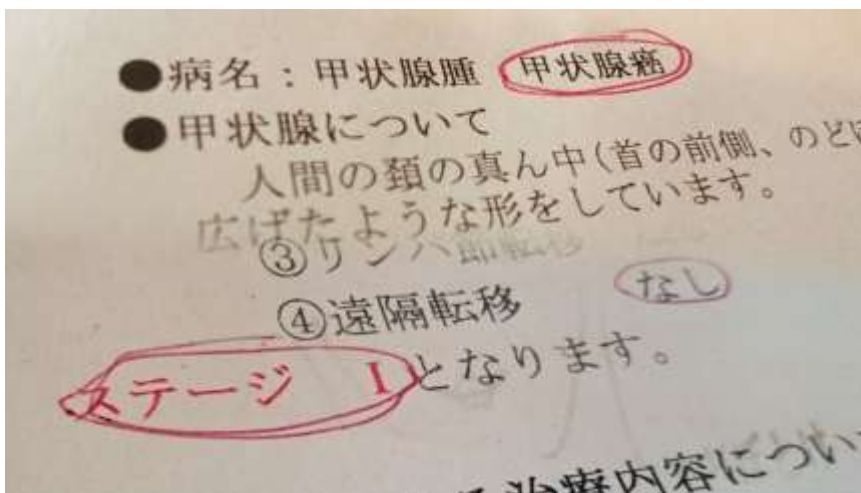
甲状腺がん 手術編 012：2か月の差でステージ I。

2017年3月28日（火） 入院当日

PET検査の結果も受けての治療計画説明が行われました。トキはトモと二人で個室に入りました。説明を行ったのは部長ではなく、若い医師でした。業務的ですが、サバサバとしており、トキは潔く聞くことができました。

甲状腺がんのステージ（病期）判断は45歳で線が引かれるのです。トキの場合…

年齢 : 44歳（2017年3月28日 時点）
癌の大きさ : 12mm（甲状腺右葉に1個）
リンパ節転移 : あり（両側頸部リンパ節） / 遠隔転移 : なし



骨や肺などへの遠隔転移はないものの、状態からすれば確実に、ステージⅢ～Ⅳです。

45歳未満なので、
この状態でもステージ I

と診断するらしいのです。ところが、トキは2か月後には誕生日が来て45歳になります。

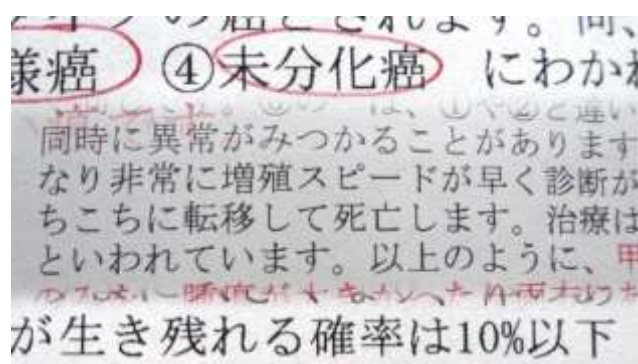
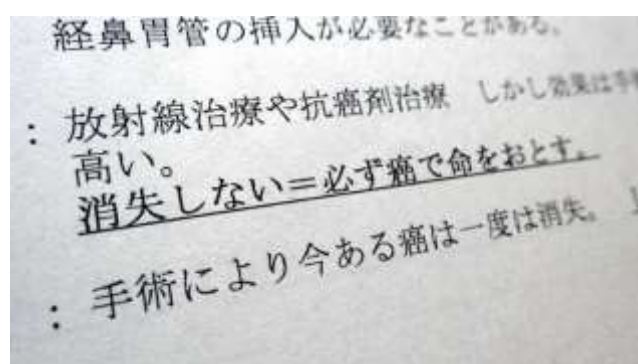
ほぼ45歳です。わずか2か月の差でステージをⅡ以上も下げて大丈夫なのでしょうが？

つまり、そのくらい甲状腺がんは、年齢が若いほど進行が遅いのでしょうか。トキは、あえて「僕が45歳だったら？」とは聞きませんでした。因みに甲状腺乳頭がんの治療は手術がスタンダードで、

放射線、抗がん剤などの治療は効果が期待しにくいようです。

説明書にも、その効果は手術と同等ではなく、がんが消失しない可能性が高い。

消失しない＝必ず癌で命を落とす。と記載してあります。さらに注意点として手術により、今ある癌は一度は消失。**しかし再発の可能性はある。**と記載されています、いずれにしても、手術以外に選択の余地はなさそうです。



そして、『乳頭がん・濾胞がん・髄様がん・未分化がん』の説明も書いてあります。

甲状腺がん全体の内80%は乳頭がんで、他は稀。

特に『未分化がん』の場合、平均3か月程度であつというまに大きくなり、体のあちこちに転移して死亡。生き残れる確率は10%以下・・・とあります。

トキの場合、リンパ節の腫れに気付いた2か月前から大きさがあまり変わっていないというトキの自供と諸々の検査の結果から、おそらく『乳頭がん』であろうという雰囲気は漂っていました。説明書にも『乳頭がん』は、『おとなしいタイプで、発育はとてもゆっくり』と、生物の性質のように書いてあります。

総合病院2の時から、アグレッシブな雰囲気が無いのは、きっと、そういうことなのでしょう。

⇒ 013 : 歌がへたになるなどが出現。